

# 地域協力おこし



## 4月号

### 3年間の任期を終え

### 4月末「卒隊」

移住者目線で  
村の受け入れ態勢を強化！

### 移住・定住促進

### 空き家対策

みながわ けんたろう  
皆川 健太郎

村内空き家の実態調査。

移住者目線を活かした空き家活用で、新たな人材を呼び込む

● 移住相談

● 空き家バンクの運営

● 空き家等対策計画運営

● 利活用可能な空き家の掘り起こしと整理

● 磐梯高原地域おこし協力隊意見交換会

● 棚田オーナー制度の企画・実施

● 会津大学短期大学の学生と空き家エンディングノートを制作



### 地域おこし協力隊の 退任にあたり

みながわ けんたろう  
皆川 健太郎



みなさん、3年間、お付き合いいただきありがとうございました。どこからか来たよそ者を受け入れていただき、感謝しております。

振り返ると、「地域で新しい価値を創造する仕事がしたい」との勝手な志を胸に、北塩原村を訪ね隊員となりました。みなさんには、私の大きな理想にお付き合いいただきながら、たくさんの温かい応援をいただきました。

そんな3年間でしたが、なかなか思うようにはならず、自分の力のなさが招いたものではありますが、多くのやり残した感や、もどかしさがあります。このやり足りない気持ちを企画書「きたしおばら30サポートーズ」にまとめましたので、ご興味のある方はホームページよりご覧ください。

### 地域おこし協力隊って？

都心から地方へ移住し、新たな地域の担い手として農業・事業継承・情報発信などの「地域協力活動」を行いながら、村への定住を目指す取り組み。任期はおおむね1年～3年です。北塩原村では現在5名の協力隊が活動しています。

協力隊Instagramもぜひ  
チェックしてみてください



VILL.KITASHIOBARA.OKOSHI



いつもと違う一歩を踏み出すことは、勇気や、エネルギーが必要だったり、恥ずかしかったり、バカらしく思えたりすることもあります。でもその一歩が、そんな空気を変える力になる。そんな空気を変える提案ができればと「きたしおばら30サポートーズ」を考案しました。地域おこし協力隊を、30人体制で運営することにより、地域の活力につながるプロジェクトです。一歩踏み出す勇気が、地域を変える力になればと願っています。

『大自然』と『人』という素晴らしい資源があるこの村は、大きなポテンシャルを秘めています。きっと素晴らしい未来になることと、みなさんのご多幸をお祈りします。



『きたしおばら30サポートーズ』  
資料はこちらからご覧ください



# 裏磐梯 直売計画



就農支援担当

こやぶたくみ  
小藪拓実

小藪隊員が所属する「株式会社あいばせ」が、北山・大塩産の野菜を裏磐梯の事業所へ直売するシステム作りの為に意見交換会を開催しました。

裏磐梯でペンションや民宿等を経営されている方や農家さんが集まりました。「ぜひ地元で採れた野菜やお米を使いたい」と様々なアイデアが飛び交いました。

たくさんの方のご協力のもと、6月より裏磐梯に中継地点を作り、まずは裏磐梯の事業者が北山・大塩産の野菜を購入できるシステムの試験運用を開始する予定です。



## 「北塩原産」

ブランド化を目指して

### 小藪隊員のコメント

裏磐梯の方々の生の声は参考になり、とても充実した話し合いになりました。小さな形でも実現し、北山・大塩と松原・裏磐梯を繋げ双方がプラスになる取り組みにしたいですし、それによって北塩原村の活性化に繋がればと思っています。

## むらびと1年生

ブランド戦略担当 野崎 瞳 VOL.1

2月から地域おこし協力隊として北塩原村に移住してきました。高校卒業後から約9年間、東京で暮らしていました。

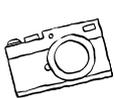
村に移住して感動した事は、空がとてもきれいな事と、夜がとても静かな事です。東京で暮らしていた時は地下鉄通勤で、常にスマホばかりでした。昼も夜も賑やかな場所が当たり前で、慌ただしい毎日を過ごしていました。

まだ移住して3か月程ですが、穏やかな北塩原村は、ゆっくりと時間が流れ、自然を感じる心の余裕を与えてくれます。広い空とたくさんの星に感動し、ここに移住してきて良かったと感じました。虫は苦手ですが、自然いっぱい村暮らしをこれから楽しんでいきたいです。

デジタルでの情報発信だけでなく、かわら版のような紙媒体でも村民のみなさんへ、移住者が感じる北塩原村の魅力や、活動に取り組む協力隊の姿を発信していきますので、これからどうぞよろしくお願います。



ユーカリドライフラワー



曾原湖からの1枚がわたしのお気に入り

